

2025－26年度の国際ロータリーとロータリー財団の年次目標

ロータリー行動計画

私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って、行動する世界を目指しています。

より意義あるつながりを育み、奉仕を通じてより持続可能な変化をもたらすためにロータリーを導くのが、私たちの戦略計画である「ロータリー行動計画です。」

この四つの優先事項を指針とすることで、より健全なクラブをつくり、すべての人が積極的に参加できる体験を提供し、行動を通じて持続的な変化を生むために人々を結びつけるという国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを実行することとなります。

優先事項1 「より大きなインパクトをもたらす」

- ・ポリオを根絶し、残された遺産を活用する。
- ・ロータリーのプログラムおよびロータリーが提供する体験に焦点を当てる。
- ・活動成果を挙げ、それを測る能力を高める。

優先事項2 「参加者の基盤を広げる」

- ・会員基盤と参加者の基盤を広げ、多様化する。
- ・参加者がロータリーを体験する新しい方法を作り出す。
- ・クラブの柔軟性とアピール力を高める。
- ・インパクトとブランドに対する理解を築く。

優先事項3 「参加者の積極的なかわりを促す」

- ・クラブが会員の積極的参加を促せるよう支援する。
- ・個々の参加者をよりよく理解し、サポートする。
- ・個人的/職業的なつながりを築く新たな機会を提供する。
- ・リーダーシップ育成とスキル開発のための学びの機会を提供する。

優先事項4 「適応力を高める」

- ・研究と革新、およびリスクをいとわない文化を築く。
- ・ガバナンス、構造、プロセスを合理化する。
- ・意思決定におけるより多様な考え方を育む。

地区行動指針

時は今 ところ足元 そのことに

打ち込む命 永久の御命 (椎尾弁匡 御作)

【解説】

今、何が大切かと考えたとき、結果としてこの一瞬をできる限り努力をする事に尽きるのではないのでしょうか。人は、ついつい先を見て焦ってしまいます。先走ってやらなくてもいいことをして失敗してしまいがちです。でも足もとを確実に固め、ゆっくりといいですから「生きる」ことです。その打ち込む姿勢が「永遠の命」に帰結していきます。

【地区数値目標】

① 会員数(ロータリアン・ローターアクト) →『ロータリーの財産』

- ・地区目標 2,000 名

ロータリークラブ(含む衛星クラブ会員) 純増 クラブ会員数×8%

ローターアクト 純増 1 名

- ・特化型の衛星クラブ創立の促進

② ロータリー財団寄付

- ・年次基金寄付 150 ドル/人
- ・ポリオプラス基金 30 ドル/人
- ・恒久基金(ベネファクター) 各クラブ 1 名以上
- ・ポリオ・プラス・ソサエティ(PPS) 現 PPS 会員+クラブ 1 名以上
- ・ポールハリスソサエティ(PHS) 地区 100 名以上維持

③ 米山記念奨学会寄付

- ・ 会員一人当たり 25,000 円(普通寄付 5,000 円 : 特別寄付 20,000 円)

④ My ROTARY の登録推進と活用促進

- ・ 会員登録 全会員の 90%以上

ロータリーの情報源でもあり各自のロータリアンとしての資質向上

【地区行動指針】

① ポリオ根絶のためのプロジェクト

ポリオ根絶はロータリーとしての最優先事項です。ポリオ根絶まであと少しと言いながら、去年はパキスタンで感染者が多発いたしました。また、ガザ地区でもワクチン由来の患者が流行しました。WHO はワクチン投与を強く訴え、ガザ地区においてポリオワクチン投与のために一時停戦にするほど、世界はポリオ根絶に対して重きを置いています。

地区ではポリオ根絶キャンペーンを世界ポリオデーに合わせ、実行委員会を立ち上げ、地区全体事業としてイベントを実行いたします。

→財団委員会を中心に、地区内各奉仕委員会・米山奨学生を対象、全クラブ。

② ウクライナ支援事業のために ICC(国際共同委員会)に設立に参画

当地区はウクライナ紛争が勃発した時から、早急に支援活動を行ってきました。そして、日本国内の多くの地区においても支援を行っています。しかしながら夫々の地区で支援を行うには限度があります。ウクライナは一か国で 1 地区であります。支援を受ける地区と支援する側の地区と協定を交わし ICC を立ち上げ、効果的な支援をするよう推し進めていきます。日本国内では ICC を立ち上げたことはありません。日本は戦後 80 周年という年に、ウクライナ復興のための ICC を立ち上げることは、とても重要な事ではないでしょうか。平和構築のためにご協力をお願いいたします。

さらに、ウクライナ復興のための義援金をお願いいたします。

→国際奉仕委員会

③ Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(インクルージョン)の促進

多様性：全てにおいて門戸を開放する

公平性：誰もが公平で大切にされる

インクルージョン：多様性を受け入れ、互いに認め合い、みんなが活躍できる

『四つのテスト』の実施

→クラブ奉仕委員会

④ 公共イメージの向上

会員増強の最大の手段として、ロータリーのイメージ向上があるのではないのでしょうか。イメージアップの手段としては、様々な媒体はありますが、ロータリーそのものを我々が楽しまなければ、外部の人には伝わらないと思います。国際協議会において「ロータリー・ブランド」というテーマで話し合われました。いろいろな意見が出されましたが、今一度クラブで、委員会で意見交換していただくことで、公共イメージアップの手段が見えてくると思います。

⑤ 会員維持率の向上と増強

マリオ RI 会長は、ロータリーの財産はクラブであり会員であると言っております。しかしながら現時点においては、会員減少は否めないものであります。老朽化したクラブは衰退の岐路に立たされるのであります。唯一復活する手立ては、新しい会員、そして若い世代の会員を増やすのみであります。クラブの次の世代への移行を推し進めるリーダーが必要であります。老朽化したクラブが、それを受け入れないならば新しいクラブを作るべきです。近年のクラブの形態としては、サテライトクラブ、原因に基づくクラブ、企業クラブ、パスポートクラブ等があります。所謂、特化したクラブであります。特化した衛星クラブも有りでしょう。是非とも、新しい仲間を増やしましょう。

⑥ ローターアクトクラブの活性化

将来ロータリアンになるようなローターアクターへの投資であると踏まえ、我々はローターアクトと共に学び、ともに活動することが大切であります。そのためには、多くのメンバーを発掘していくのもロータリークラブとして支援していかななくてはなりません。

⑦ 青少年育成事業の推進

未来を担うリーダーの育成に努めましょう。インターアクト、RYLA、青少年交換への支援及び協力を強化しましょう。

⑧ RLI への積極的参加

RLI はロータリーにおける最大の指導力育成プログラムです。一人でもロータリーの活動に理解を深め、活力あるクラブ創生に力を出せるよう参加推進をお願いいたします。

⑨ メークアップの奨励

クラブ例会出席は会員としての義務であります。メークアップは諸事情により出席が叶わないための手段ですが、時には他クラブの情報、会員との交流、そして気付きがあります。自クラブだけでなく、積極的に他クラブに出向いてみましょう。

⑩ My ROTARY の活用推進及び『ロータリーの友』の積極的な購読

ロータリーの情報がすべて網羅されております。是非とも、ロータリーの情報源の活用をお願いいたします。

⑪ クラブ優秀賞への挑戦

クラブ優秀賞を取ることが目的ではなく、自分たちが目標に向かってどれだけ躍進したかという評価です。それぞれのクラブ活性のために、トライしましょう。

→ガバナー補佐

⑫ 国際大会への参加

今年度の国際大会は、2026 年 6 月 13 日～17 日に台北(台湾)で行われます。多くの登録をお願いいたします。

⑬ ロータリー希望の風奨学金支援の継続

東日本大震災により災害孤児になった青少年への教育支援をいたします。

一人 1,000 円の支援を任意でお願いいたします。